

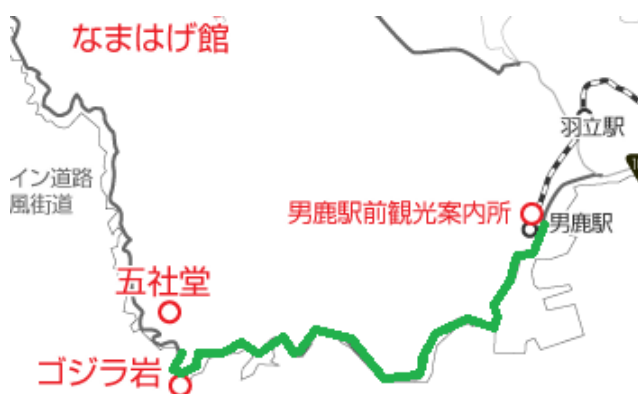
第66回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第3回：3区）

【第3区】

レースは前半2区間を終えて3区へ。

男鹿駅伝における3区は13.195kmの最長区間であり、ほぼアップダウンの無い高速区間であることからエース区間と言えるだろう。

コースは、走り出して1km市街地を直進、右折して一山超えると一転、目の前には広大な海の景色が広がってくる。ここから次の中継所手前まではフラットな海岸線を左右に折れながら走っていく。平地で視界が広いので走り易いことから、走るペースは当然に速くなるため選手個人の純粋な力の差による影響が大きい区間だ。また、今年は幸いにして曇天だが、晴天になれば海沿いで日差しを遮るものもなく、体力の消耗が激しいため、適性や経験の差、走り出しの他チームとの位置関係などにより更に結果に大きな差の出る区間でもある。



3区：13.195km（男鹿市役所～門前）



鶴崎海岸（写真提供：男鹿ナビ）

半島を一周する男鹿駅伝は、山間部と海岸部の風光明媚な風景の中を7人がタスキをつなぐ点が最大の魅力だ。選手達も街中を走るのとは違って美しい景色の中を走っていると気分よく爽快感に走ることができるし、応援の方々も選手通過までの一時、景色を楽しむことができる。

特に、3区の見線に広がる遠浅ののどかな海の景色は海風も心地良く感じられ、レースではなく、のんびりとジョギングしたら最高だろう。そこから一変して4区は激しい断崖絶壁の起伏を駆け上り、ジェットコースターのように駆け下るアップダウンの繰返しの中で、高台から時折眼下に映る素晴らしい海の景色が駅伝を盛り上げてくれる。

必死に走る選手達をよそに、監督車に乗っている関係者もこの景色を見て一時レースのことを忘れるような感覚に陥るくらい美しい景色が続く。今日は見えなくて残念だが・・・

今年3区を走るのは入社2年目の加藤 平である。神奈川県出身で情報システム部システム課に在籍し、今はコミュニケーションツールを構築する業務に就き、最近では自部門の電子ワークフローシステム立上げを担当したという、職場でも期待の若手だ。

昨年の入社後は、故障に苦しみシーズン前半はレースに出場することができず、周囲の期待に応えることができなかった。シーズン後半になり、ようやくレースに復帰したものの、既に学生時代につけた力の溜めはなく、一からのスタートとなったために思うような実力を発揮することができなかった。今期もここまでレース出場はないが、男鹿駅伝には何とか間に合わせた。

さて、レースに話を戻すと・・・渡辺からタスキを受けた加藤は自信に満ちた余裕の笑みで走り出した。今日は何かやってくれそうである。



タスキを受けて笑顔で走り出す加藤

小柄ながらストライド走法で走りも大きく、安定感が感じられるため、長い距離向きであり、同じペースで淡々とレースを進められる印象だ。この区間の適性はあるようである。

この大会で一番沿道の声援を受けられる市街地を気持ちよく走る加藤は1kmの通過タイムも予定通り順調に入り、上り坂を駆け上がると海岸線へ出ていく。

海岸線に入っても安定したペースでレースを進めるが、前後に他チーム走者は確認できない。



淡々とレースを進める加藤

視界の中に追う相手、競う相手がいない単独走となった加藤は次第に単調な走りとなり、平凡なペースにハマってしまった。

これは単独走にはよく有りがちなことで、監督車から伝えられる 1km 毎のペース以外に自分のペースに対する目安や目標がなく自分を追い込む術を失ってしまう。1km 毎のタイムを聞いて、自分では上げていかなければという意識で身体を動かそうとしても言うことを聞かない。



自分との闘いが続く 前を追っていくぞ！！

レース後半、大きく視界が開けたところで前を行く学生チームが視界に入ってきた。タイム差は 1 分強あり、右に左に折れながら進むコースではすぐに視界から消えてしまう。

それでも加藤は、前が見えたことで目標を確認でき、徐々にペースアップして必死に追っていくが、なかなかタイム差は縮まらない。

ここで前田監督が給水を勧めるが給水は受け取らない。給水だけではないが、こういった仕草や行動にも性格は表れるものだ。加藤のように真っ直ぐで他人の考えに流されず、自分の考えを信じ自分のペースでという選手は、勧められた給水は基本的に受け取らない。あくまでも自分が必要とする時に自ら手を上げて求める。

一方、自分が必要としていない時でも勧められれば、それじゃあ少しでも口にしておこうか、身体に少しかけておこうかというように給水を拒まない選手もいる。



加藤ガンバレ！！ 監督車にタイム差を伝える応援メンバー

その後、加藤は自ら給水を求めると、監督の掛け声を受けながら、残り 3km、2km、1km と最後の最後まで時折視界に入る学生チームを懸命に追い続けラストスパートして 3 区の走りを終えた。

結果的に前を行く学生チームにはタイム差を広げられたものの、2 区 渡辺に続く連続区間賞の走りで 4 区のベテラン石原にタスキをつないだ。だが、その表情は天気同様にどこか晴れなかった。

【3 区成績】一般の部

距離 : 13.195km

順位 : 1/39 位 (大学を含む全体順位 : 7/53 位)

タイム : 40 分 26 秒 (目標タイム : 39 分 00 秒)

以 上

※ イベントレポート (第 4 回 : 4 区) へ続く